

消防ヒヤリハットデータベース事例情報シート

【事例概要について】

.....

1. 事故・ヒヤリハットの別	ヒヤリ
2. 体験した事例の名称	潜水活動中、海底に堆積した釣り糸と探索ロープが身体に絡みつки、浮上できなくなった。
3. 体験した事例の中心的要素	入水自殺者の捜索のため、海中の潜水活動に従事した。 水中の透明度が悪く、視界はゼロで手探りでの捜索であった。 2回目の捜索を終了し、浮上しようとしたところ、海底に堆積していた釣り糸と探索ロープが身体に絡みつки浮上できなくなった。 一時、パニックに陥りそうになったが平静を取り戻し、絡まったロープを冷静に解き、浮上した。
4. 体験した事例の原因・理由	海底では水中ライトをマスクの前に持ってきて光がうっすらと見える程度で、計器も見えないほど視界が悪く、底の状況が全くわからなかった。 現場海域は潮の流れが悪く、また、多くの釣り人が訪れる釣り場で、海底にはゴミや釣り針、てぐすが大量に堆積していた。釣り糸は、大量に絡みつくと、もがいても切れず水中拘束によるパニックに陥りやすい。

【体験した事例の直接的な原因について】

.....

1. 体験した事例の直接的な原因	
------------------	--

【体験した事例について】

.....

1. 発生日時	平成 20 年 7 月 18 日	午前 6 時頃
2. 発生した当時の天候	晴	
3. 発生した活動現場	屋外：海中	
4. 体験した事例の種類	回答者が、自分自身で負傷した。	
5. 事故の程度（ヒヤリハットの場合、仮に負傷したときの程度）	死亡していた（させていた）だろう。	
6. どのようなことが起きたのか（起きそうになったのか）		
7. 事例体験時の活動	救助、現場活動中期 []	
8. （7の活動中） どのような作業中に発生したか	人命検索・救出	
9. 同様の体験は、これまでにどの程度の頻度で体験していますか。	初めて体験した。	

10. 事例体験者の属性（回答者は当事者A）

○当事者 A	年齢[34]歳、 勤続年数[16]年、 現場経験年数[16] 年、 階級[消防司令補]、 同様の活動 [1 年に数度]、 任務 [隊員]
○当事者 B	年齢[]歳、 勤続年数[]年、 現場経験年数[]年、 階級[]、 同様の活動 []、 任務 []
○当事者 C	年齢[]歳、 勤続年数[]年、 現場経験年数[]年、 階級[]、 同様の活動 []、 任務 []
その他 (当事者が 4 人以上の場合)	

11. 事例発生経過。

	誰(何)が	なにをした	その他・備考など
経過 1	当事者 A	消防艇に乗り組み出動	
経過 2	当事者 A	消防艇から飛び込み潜水	
経過 3	当事者 A	1 度目の潜水、視界ゼロであることを認識し、一旦浮上。	
経過 4	当事者 A	潜水隊員を増やして、2 度目の潜水	
経過 5	当事者 A	検索ロープが何かと絡まり、検索不能	
経過 6	当事者 A	身体にロープ類が絡まり浮上不能	
経過 7	当事者 A	カラビナ、ロープを外し、浮上	
経過 8			
経過 9			
経過 10			

【その事例発生時の状況について】

[illegible]

○事故の場合 : 事故が起きたのはどうしてだと思うか？

ヒヤリハットの場合：ヒヤリハットで済んだのはどうしてだと思うか？

体力、反射神経等身体能力が優れていた。危険事象の対応方法を知っていた。その他：潜水拘束は起こり得る事故と認識していたため、パニックに陥らず冷静に対処できた。

○心理・体調について

a. あせりを感じていた

・早く、現場到着や、活動をしなければならないという“あせり”を感じていた。	いいえ
・被害拡大が消防活動を上回っており“あせり”を感じていた。	いいえ
・周辺の野次馬などにより“あせり”を感じていた。	いいえ

b. 注意力が欠如していた

・ 1つの事象に集中し、他の事象への注意力を欠いた。	いいえ
・ 活動終息（鎮火等）や活動内容が些細だったため注意力を欠いた。	いいえ
・ 体調不良や疲れにより注意力を欠いた。	いいえ

c. 経験・知識が不足していた。

・活動内容が、自己の能力や技量を超えていた。	いいえ
・活動中に起こりうる危険について認知していなかった。	いいえ
・活動に対する経験が不足していた。	いいえ

d. 心身の不調があった

・体調が悪かった。	いいえ
・悩み事があった。	いいえ

○装備・資機材について

e. 資機材の故障・不具合があった。

・装備・資機材自体に問題があった。	いいえ
・装備・資機材の使用方法が誤っていた。	いいえ
・装備・資機材の対処能力を超えていた。	いいえ
・必要とする装備・資機材がなかった。	いいえ

○活動環境について

f. 障害物や自然環境（雨・濃煙）によって視界がさえぎられた。

・障害物（建物等）のため周囲の状況が見えなかった。	はい
・特異環境（煙、暗闇、降雨等）のため周囲の状況が見えなかった。	はい

g. 行動しにくい環境だった。

・狭隘な場所であった。	いいえ
・暑かった（寒かった）。	いいえ
・野次馬が多かった。	いいえ
・現場周辺の地理に不案内だった。	いいえ

h. 足場が悪かった。

・足元が躓いたり滑りやすかった。	いいえ
・足元の強度が不足していた。	いいえ

○指揮・管理について

i. 適切な指示が得られなかった（適切な指示を与えられなかった）。

・活動指示が得られなかった。（無線が通じない等。）	はい
・指示内容に誤り・偏りがあった。	いいえ
・指示内容が実施困難であった。（周辺環境に、隊員技量の把握に欠けた。）	いいえ

k. 関係者間の情報伝達・役割分担が不十分だった。

・隊員の連携が不十分だった。	いいえ
・隊員が不足していた。	いいえ

○その他

l. その他の理由があった。

はい：潜水時の視界不良は認識していたつもりだったが、今回は全くの視界ゼロ環境下での活動で難易度が高い上に、海底には障害となるゴミ等が大量にあったため、発生した事案だと思う。
--

【事故発生後の取り組みについて】

.....

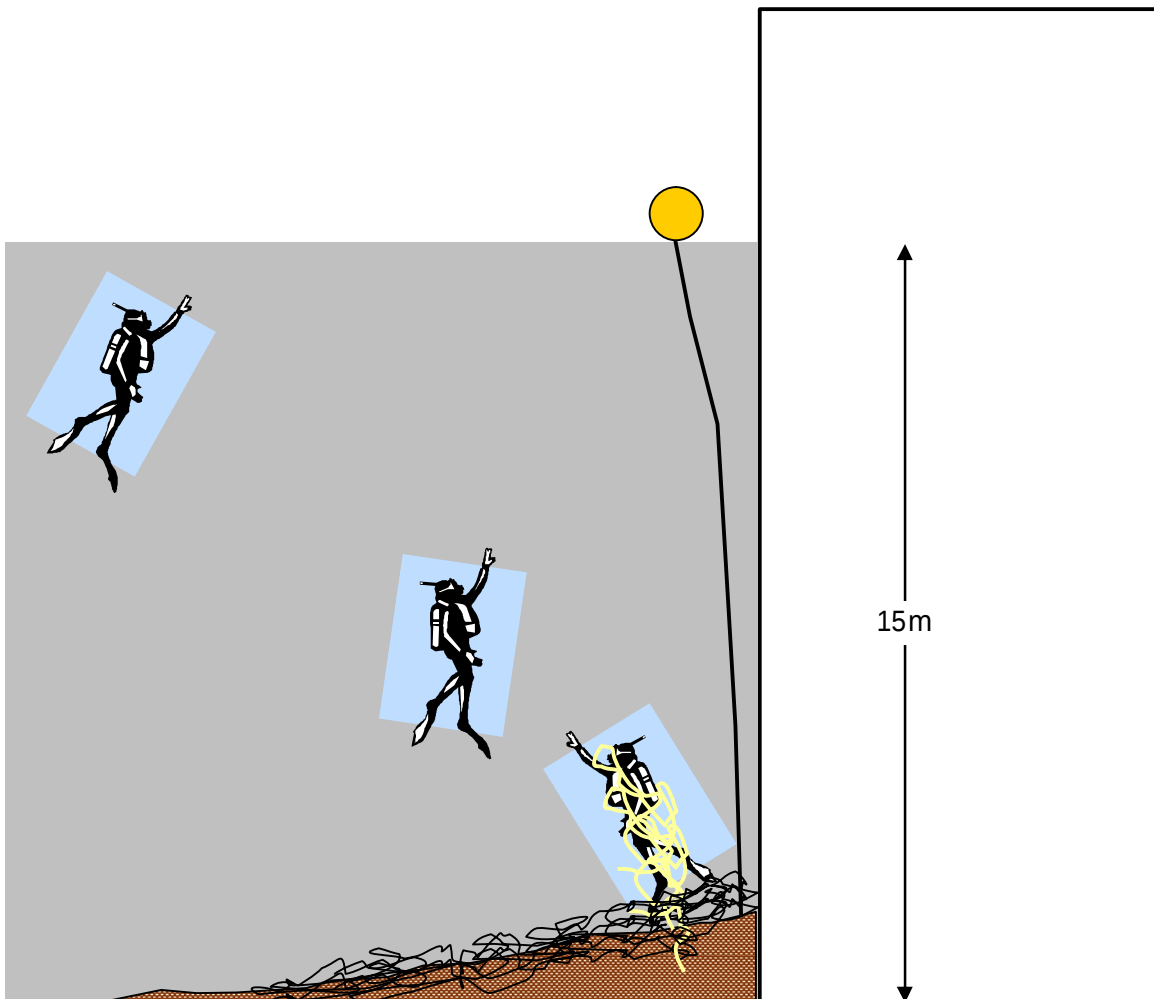
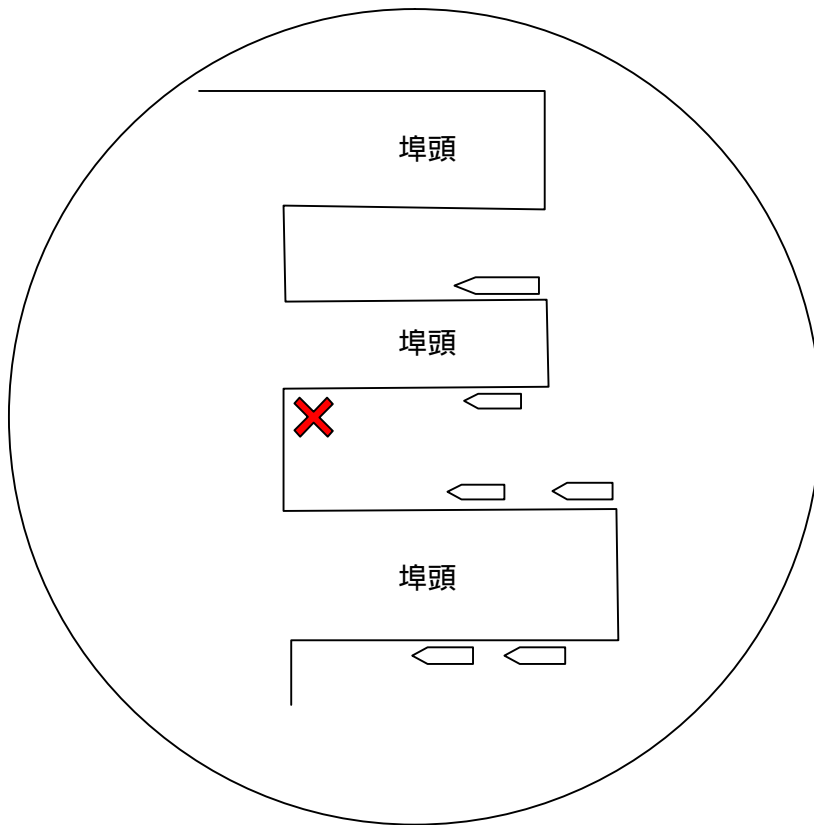
○注意力欠如、焦り等の対策について

○装備・資機材の対策について

○活動環境の対策について

○指揮・情報伝達の対策について

潜水活動中のヒヤリハット



潜水活動中のヒヤリハット



○ヒヤリハット事例：潜水活動中、海底に堆積した釣り糸と搜索ロープが身体に絡みつки、浮上できな
（同様の体験は、初めて体験した。）

(08H0030)

・発生日時：平成20年7月18日 午前6時頃

経過	現場の状況	隊員A	備考
		隊員／消防司令補 ・年齢 34 歳 ・勤続 16 年 ・現場 16 年 ・同様の活動: 1年に数度	
	出動指令		水難救助
			入水自殺者の搜索
		消防艇に乗り組み出動	
		↓	
		消防艇から飛び込み潜水	
		↓	
	水中の透明度が悪い。海底では水中ライトをマスクの前に持ってきて光がうっすらと見える程度で、計器も見えないほど視界が悪く、底の状況が全くわからなかった。	1度目の潜水、視界ゼロであることを認識し、一旦浮上。	
		↓	
		潜水隊員を増やして、2度目の潜水	
		↓	
現場海域は潮の流れが悪く、また、多くの釣り人が訪れる釣り場で、海底にはゴミや釣り針、てぐすが大量に堆積していた。	2回目の搜索を終了し、浮上しようとしたところ、検索ロープが何かと絡まり、検索不能		
	↓		
	身体に海底に堆積していた釣り糸とロープ類が絡まり浮上不能		
	↓		
	一時、パニックに陥りそうになったが平静を取り戻し、カラビナ、ロープを外し、浮上	釣り糸は、大量に絡みつくと、もがいても切れず水中拘束によるパニックに陥りやすい。	

◎ヒヤリハットで済んだのはどうしてだと思うか？
○直接的な原因： ・体力、反射神経等身体能力が優れていた。 ・危険事象の対応方法を知っていた。 ・潜水拘束は起こり得る事故と認識していたため、パニックに陥らず冷静に対処できた。

◎事故が起きた背後要因
(活動環境について) ・障害物(建物等)のため周囲の状況が見えなかった。 ・特異環境(煙、暗闇、降雨等)のため周囲の状況が見えなかった。 (指揮・管理について) ・活動指示が得られなかった。(無線が通じない等。) (その他) ・潜水時の視界不良は認識していたつもりだったが、今回は全くの視界ゼロ環境下での活動で難易度が高い上に、海底には障害となるゴミ等が大量にあったため、発生した事案だと思う。